

県内ワイド

元氣よ、届け

日赤県支部。被災地へ



被災地で、「津波で
んでんこ」という言葉
を聞いた。東北の太平
洋側、三陸地方に伝わ
る言葉で、「てんでん
こ」とは「てんでバラ
バラ」の意味。「津波
が来たら、他人には構
わず一人一人がてんで
バラバラに逃げろ」と
いう意味だそうだ。

「ライスライン」

支え合う「共助」広がる

自身の身一つを守る。日常の中なら「非情」と非難されること、災害発生直後の数秒、数分は「自助」。これがクローズアップされた災害だった。そして、発生からも政の支援、「公助」の在り方が問われている。でも被災現場に入ると感じるのは、「自助」と



津波は一瞬のうちにすべてを流し去った。「てんでんこ」に逃げられたが、生死を分けたケースも。3月16日、岩手県陸前高田市で(日赤県支部提供)

勇気づけてくれる。現地の新聞で見つけた記事。「震災から二カ月が過ぎ、母校の高田小の校庭のがれきがきれいになくなっていた。まちが復興に向かって進んでいることを感じた。中学校で日赤職員の働く姿を見て、自分も将来職員となって被災者を助けたいと思う」

「親も子もない。まず、自分の命の安全を
図れ。一家全滅、共倒
れになることを防げ」
こんな悲しくも厳しい
覚悟が、親から子へ伝
えられてきた。これは
ど、津波は過去何度も
三陸地方を襲い、あら

生きていかなければ
私たちは生き残らなけ
れば たとえ他人に非
情と言われても それ
がたった一人だとして
「それは家族の哀も」と歌われる。

先生は「心遣いは本当
にありがたいです。早
速、(被災の)皆さん
に食べてもらいます。
義援金を寄せてくだ
さる人たちの心も、見
一緒被災地に行つて
た言葉を、今こそ声を
大にして叫びたい。が
んばろう日本！」が
るぞ福井県！」と。

この言葉をタイトル
にした歌もある。そこ
では「それは家族の哀
しい約束 きつと他人
に否定されるだろう
津波は一瞬のうちに全
てのものを根こそぎ
らっていった。災害の
発生直後は、まず自分
市深見町の中嶋国幸さ

「公助」をつなぐ「共助」
こそこが、こんな時、最
も大切なんだというこ
とだ。

先日、県支部に「お
ねばり強くがんばって
いきます」と感謝を述
べていた。ライフライ
ンには寸断されても、県
掛けられた激励やねぎ
われわれ救護班を逆に
ばるぞ福井県！」と。

岩手県陸前高田市第
一中学校一年の女子生
徒。われわれが救護所
を設置していた、あの
中学校だった。みんな
が共に支え合う「共助」
が、つながり、広がっ
ている。